



独立行政法人 国立病院機構
村山医療センター

特別号

平成 30 年 11 月発行

発行者 院長 朝妻 孝仁

医療連携通信

〒208-0011 東京都武蔵村山市学園 2-37-1 TEL 042-561-1221 FAX 042-564-2210

<http://www.murayama-hosp.jp/>



10月11日、新病棟見学ツアーを開催しました

目次

- ◇ 新病棟開設に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ◇ 新病棟開設に向けて—新病棟見学ツアー開催— ・・・・・・・・ 3
- ◇ リハビリテーション科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ◇ 在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会に参加して・・・・・・・・ 5
- ◇ 外来診療担当医師・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

新病棟開設に向けて

院長 朝妻 孝仁



当院の病棟は1966～1969年にかけて建てられたもので、老朽化が進んでいます。職員一同の長年の悲願であった病棟の建て替え事業が平成27年3月に機構本部から承認され、来年3月の開設を目指して、現在急ピッチに工事が行われています。近隣の皆様には、工事に伴う騒音、振動、及び工事関係の車両の出入り等で大変ご迷惑をおかけしていることをこの場をお借りしてお詫び申し上げます。何卒よろしくご理解のほどお願い申し上げます。

さて新病棟は従来の西病棟と東病棟を統合し、地上6階建てです。病床数は従来と変わらず、303床です。新病棟の特徴は脊髄損傷や脳血管障害の患者さんが、快適にリハビリテーションを行うことができるように配慮した点です。すなわち車椅子、あるいは歩行器での移動がスムーズに行えるよう、廊下の幅を従来の2.5mから4.7mと大幅に広げ、ベッド周囲にも十分なスペースがあるように設計されています。また、主に脊髄損傷の患者さんが入院する障害者病棟には各病室に特別な空調装置を設置し、快適な入院生活を送っていただけるよう工夫しました。これは新病棟設計の段階で訪問した九州にある総合脊損センターの取り組みを参考にしました。個室の数も従来は19室であったのに対して、新病棟では63室と大幅に増やしました。さらに1階には収容人員140名の地域医療研修室ができますので、各種セミナー等の開催が可能となります。当院では毎年、10月に市民総合センターで“市民公開講座”を開催し、市民の皆様にご参加いただいておりますが、来年からは当院の地域連携会議室での開催が可能となります。

当院は1941年に開設以来、骨運動器疾患、すなわち整形外科、およびリハビリテーション科を中心として診療を行ってきました。手術件数が全国で1,2位を誇っている脊椎・脊髄外科に加えて、最近では下肢関節（膝関節、股関節）、および上肢（手、肘関節）の分野でも優秀なスタッフを揃え、実績を伸ばしています。さらに内科、外科でも常勤の専門医が診療にあたっています。当院には地域包括ケア病棟がありますので、在宅の患者さんのレスパイト入院、リハビリ目的の入院にも対応しています。これからも地域に根ざした医療を住民の皆様提供していきたいと考えています。何かお困りのことがあれば、是非、当院の地域連携室にお声掛け頂ければ幸いです。「患者さんの視点に立ち、良質で高度な医療を提供します。」という理念のもと、今後ともスタッフ一同努力してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。



新病棟開設に向けて —新病棟見学ツアー開催—

副院長 谷戸 祥之

平成30年10月11日、希望者の中から抽選で20名の職員が新病棟見学ツアーに参加しました。秋雨のなか、新病棟の東側広場におそろいのヘルメットをかぶった職員が集合しツアーが始まりました。

実は、私自身は病室のレイアウトの確認のために少し前に新病棟内に入れてもらっていました。今回の見学ツアーにどうしても参加したかったのは、来年そこで働くことになる当院の職員達の反応が見たかったからです。私自身としては新病棟のつくりにごく感激したのですが、他の職員、特に若い看護師さん達がどうみるのかすごく不安でした。

今回入れていただいたのは新病棟の1階、回復期リハビリテーション病棟です。患者さんの食堂から入り、ナースステーション、休憩室、4人部屋、個室、風呂などを見させていただきました。当院には運動器疾患の患者さんが多数入院されます。そのため新病棟では4人部屋も広く、車椅子でも不自由なく過ごせる構造に気がつかれました。廊下も広くストレッチャーが余裕ですれ違えます。現在の病棟とは比べようもありません。もちろんまだ病棟の建物全体に覆いがかかっており、光は入らず数少ない裸電球のもと、うす暗い状態でした。しかし、私の心配とは裏腹に、職員の表情は明るさに満ちていました。「広ー!」、「かっこいい!」、「すごい!」、「この吹き抜けはどう演出されるの?」など希望と期待に満ちた声にあふれました。「先生、これならモチベーション上がりますね」、「もっと頑張ってくださいね」などの嬉しい言葉をもらいました。

朝妻院長と私が当院に赴任し、新病棟建設の企画から交渉、設計、そしてまた交渉など多くの時間と手間をかけました。なかなか思うようにいかず難渋したことも多々ありました。かつての負の遺産に苦しみ、工期の遅れも生じました。しかし、これまでの多くの苦労は新病棟で働くことになる、今回参加してくれた職員達の明るい笑顔によって霧散しました。

順調に行けば、来年3月にこの新病棟へ引っ越しになります。昭和前期に建てられた村山医療センターの建て直しの半分が完成します。そして、まだ外来・サービス棟や検査棟、手術棟、管理棟の建て替え計画は始まっていません。どこに出しても恥ずかしくない、新しい国立病院機構村山医療センターの建設に向け、今後も努力してまいります。



村山医療センターにおけるリハビリテーションの質の一考察 ならびに転院先の妥当性についての諸々

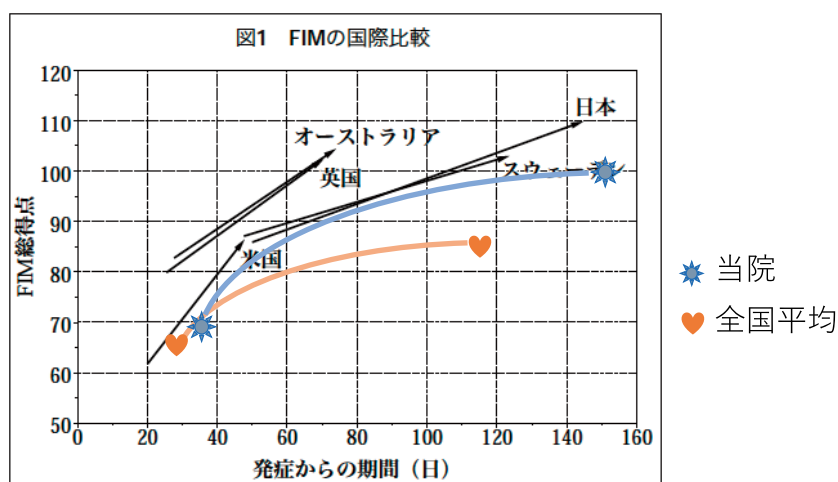
リハビリテーション科医長 植村 修

当院のリハビリテーション（リハ）専門病棟には回復期リハ病棟と障害者病棟、地域包括ケア病棟とがあり、それぞれ主に脳血管疾患、脊髄損傷、そしてその他の疾患を受け入れております。これは、同じような疾患を同じ病棟に集約することで、より専門的で均一な医療を提供するためです。例えば、脊髄損傷は年間 5000 人程度という発生頻度が示すようにそれほど頻繁に遭遇する疾患ではありませんが、麻痺や自律神経障害、排泄障害といった多様で重篤な障害を呈するため、その対応には高度な専門性がが必要です。入院期間も長くなる傾向があり、平成 28 年度当院入院患者の平均在院日数は 200 日をはるかに超えています。これは回復期リハ病棟の入院上限日数を大きく上回っています。リハだけでなく、排泄方法の検討や、車椅子などの準備、家屋改修計画の提案なども行うために、これだけの長い期間が必要なのです。そのため、1 日のリハ時間や休日リハの有無で転院先を選ぶ最近の風潮に素直に帰依することは、私にはできません。

ところで、当院のリハ能力を示すため、回復期リハ病棟における脳血管疾患等のリハ効果を全国平均と比較してみました。リハ効果の一般的な指標に、日常生活動作を最大 126 点で採点する FIM というものがあります。図は、FIM の発症からの時間的推移を国際比較した過去の報告に、当院（☆）と全国平均（♡）を重ねたものです。ともに左の印が回復期リハ病棟入院時、右が退院時の点数になります。発症から当院転院までの期間は全国平均と比して長くなっていますが、これは患者さんの状態の安定に時間を要している、つまり重症な患者を受け入れていることを示しています。にもかかわらず FIM の上がり幅は当院の方が大きく、その高いリハ能力を如実に見て取ることができます。

紙幅の関係でその他の比較は省きますが、上述のように、あらゆる疾患を軽症から重症まで幅広く受け入れ、かつ患者さんが持つ能力を最大限まで引き上げることができる専門性の高い病院であることがお分かりになるかと思えます。

来春には待望の新病棟が竣工します。回復期リハ病棟では経管栄養の方も含め全員が同じエリアで食事を摂るようになります。時代に迎合することなく、職員も患者さんもお互いの交流を通して、皆に優しい医療を目指して今後も邁進してまいります。



在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会に参加して

看護部長 佐藤 千春
副院長 谷戸 祥之

平成30年10月13日（土）、武蔵村山市民総合センターにて、「平成30年度 第1回在宅医療推進のための地域における多職種連携研修会 テーマ：ACP（アドバンス・ケア・プランニング）とは」が開催され、当院からは看護部長、地域連携室から小山看護師長、隣副看護師長、看護師、理学療法士、作業療法士が参加しました。

ACPとは「今後の治療・療養について患者・家族と医療従事者があらかじめ話し合う自発的なプロセス」と言われ、在宅医療のターミナルケアではとても重要なものですが、骨・運動器疾患患者が多い当院ではなかなか学習の機会がありませんでした。ロールプレイを行うことで、実際にACPを導入していく難しさを体感することができました。懇親会では、普段交流のない方々とも意見交換ができ、有意義な時間となりました。皆様の武蔵村山市民に対する愛情を多分に感じると共に、村山医療センターに対する少々厳しいご意見やご要望も頂きました。

- ・地域に根差そうとしている病院だと思っていなかった。
- ・専門性が高く、全国から患者が集まってくる病院だと聞いている。
- ・救急患者を断られることが多い。
- ・患者を受けてもらえない。
- ・敷居が高いイメージ。
- ・平成27年から行っているが、こんなに村山医療センターから参加してもらったのは初めてである。
- ・整形外科的な疾患で、専門医の診療が必要な場合の鑑別法等の研修をしていただけるとありがたい。
- ・新病棟が完成したら、見学させて頂きたい。

村山医療センターとしては、骨・運動器の分野では専門医療を展開しつつも、北多摩医療圏の中核病院のひとつとして今後も努力していく所存であります。地域医療に貢献し、在宅医療の推進についても積極的に参加していく予定です。もちろん大学病院や大きな規模の総合病院ではなく、研修医もいないため救急患者の受け入れに時間を要してしまうことがこれまでありました。しかし、近隣の大学病院から若い医師の研修も受け入れられるようになり、外傷や救急時にも対応できるよう調整しております。

来年3月に新病棟の完成、引っ越しとなりますが、老朽化した外来部門の建て替えについてはまだ計画すら始まっていません。計画を推進するには、さらなる業務の改善と安定した経営努力が必要です。さらなる職員教育、待遇への配慮に努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

*新病棟の完成後、収容人員140名の新しい地域医療研修室にて完成記念式典及び内覧会を予定しております。日程はおそらく3月中旬の土曜日午後となりますが、決まり次第おってご連絡差し上げます。

なお、当日に当院講師による整形外科疾患の講演も予定しております。



外 来 診 療 担 当 医 師

独立行政法人国立病院機構 村山医療センター

平成30年11月1日現在

■ 一 般 外 来

※受付時間 (初診：8時30分～11時まで)
再診：8時30分～12時まで)

診療科等		月	火	水	木	金	備 考	
内 科		片 寄	岡 田	片 寄	岡 田	岡 田		
外 科		大 石	飯 野	松 岡	飯 野	大 石		
整形外科	再診	脊椎	○朝 妻 ○竹 光 小柳津	◎谷 戸 ◎藤 吉 加 藤(貴) 松 林	○○金 子 山 根	○○許 斐 矢 内	小見山 松 川 辻	◎脊髄損傷 ○側弯 脊椎・脊髄 (頸椎・胸椎・腰椎)
		関節	清 水		大 木	吉 原	笹 崎	股・膝関節・下肢
		手	加 藤(直)		加 藤(直)			手指・上肢
		一般						
	初診	交替制						
リハビリテーション科		富 岡	植 村	竹 内		交替制(※) (第4・5金は休診)	※第1金…竹内 第2金…植村 第3金…富岡	
歯 科		宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	宮 本	予約制	

■ 専 門 外 来 (全 て 予 約 の み)

診療科等	月	火	水	木	金	備 考
内科リウマチ				片 寄 (13:00~)		予約制
側 弯			金 子 (13:30~15時)	金 子 (第2・4週 13:30~16時)		予約制
装具外来 (リハビリ科)	植村/倉片/竹内 (13:00~)					予約制
禁煙外来		岡 田 (午前11:30~)		岡 田 (午前11:30~)	岡 田 (午前11:30~)	予約制

※循環器科、泌尿器科、皮膚科、精神科については、一般外来を行っておりません。

受診予約のご案内

○地域医療連携枠を利用した予約方法(医療機関からの患者紹介)

村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「医療関係者の方へ」→「紹介患者さん予約方法」をご参照下さい。

※不明な点等は、地域医療連携室(042-561-1254)へお問い合わせ下さい。

○一般の患者さんの初診予約方法

①村山医療センターホームページ(<http://www.murayama-hosp.jp/>)より、
「オンライン初診予約」がご利用いただけます。

②電話予約(受付時間 平日 13時から17時)

初診予約電話番号 042-561-1698(直通)・042-561-0965(直通)

※不明な点等は、②の初診予約電話番号にお問い合わせ下さい。